

# YKK AP住宅省エネ性能計算ソフト 操作マニュアル 【外皮性能 簡易計算】 Ver.3対応版

「当該住戸の外皮の部位の面積等を用いずに外皮性能を評価する方法」



# 改定履歴

日付	内容
2020/10/30	初回版配信
2021/04/02	名称変更：YKK AP外皮性能計算ソフト（WEB版）⇒YKK AP住宅省エネ性能計算ソフト
2021/12/03	変更ページ P3：注意 既定のアプリの設定方法、P4：4 キャッシュのクリアの方法 P5：窓の上限数変更
2022/03/31	変更ページ 表紙：Ver.3対応版、P3：使用推奨環境、土間床等の外周部、 P5、P6：Ver.3対応についての注意点、p7：入力の要否、基礎壁・基礎の上限数、 P8：基礎壁・基礎の入力、P10：削除ボタンの変更、その他ボタンの説明、 P12：地域区分の入力、p13：基礎壁追加、P16：熱抵抗低減、 p17、18：土間床等の外周部の評価方法、p19～21：基礎・土間床の入力、 p37～42：基礎・土間床の帳票
2022/06/03	変更ページ P22：夏期の日射熱取得率、P24：窓の緩和利用
2023/05/17	変更ページ P31：帳票（1）－帳票ダウンロード（帳票ダウンロード画面の更新）
2023/05/30	変更ページ P5：エネルギー消費性能計算プログラム(住宅版)Ver.3への対応についての注意事項 P6：2022年3月31日以前に作成した物件を使用する場合の注意点（外壁の表追加） P10:物件詳細画面（画面更新） P11：物件編集画面の共通ルール（画面更新） P11、P12：延床面積、床面積の説明書きの変更 P18：土間床等の外周部の評価方法② 基礎の適用条件（ベタ⇒べたに表記統一） P27：物件編集画面（14）－ドア編集画面（熱貫流率の説明追加）
2023/05/31	変更ページ P11：物件編集画面の共通ルール、P12：物件編集画面（1）－物件概要① （延床面積の説明書きの変更）

# 改定履歴

日付	内容
2023/09/04	変更ページ P8：制約事項(基礎、基礎壁の部位の上限数変更) P37：帳票（6）－「外皮の入力」シート②（帳票更新） P44、45：帳票（13）、（14）－「窓の入力」シート①、②（帳票更新） P46：帳票（15）－「ドアの入力」シート（帳票更新）
2023/10/02	変更ページ P15：物件編集画面（3）－屋根・天井、外壁、床（画面更新） P21、22：物件編集画面（7）、（8）－基礎・土間床②、③基礎の入力画面（画面更新） P28：物件編集画面（14）－ドア編集画面（画面更新）
2024/04/30	変更ページ p29：物件編集画面(15)－ドアリスト、p30：計算(1)－計算実行① 画面更新 p32：帳票（1）－帳票ダウンロード 帳票ダウンロード画面の文言追加、開口区分「窓」となる「袖及び 欄間付きドア等」文言追加 p44-47：帳票（13）- 帳票（16）－「窓の入力」シート① - ④ 帳票改修により画面更新 p49-50：帳票（18）- 帳票（19）－「ドアの入力」シート① - ② 帳票改修により画面更新
2024/12/24	変更ページ P12：物件編集画面の共通ルール（画面更新） P24,25：物件編集画面（10）、（11）－窓編集画面①、②（「窓記号」入力欄の移動、「窓記号」入力必須の注意事項追加） p26：物件編集画面（12）－窓リスト（日射熱取得率に「仕様」又は「代表試験体」と記載） p28：物件編集画面（14）－ドア編集画面（「ドア記号」入力欄の移動、「窓記号」入力必須の注意事項追加） p29：物件編集画面（15）－ドアリスト（日射熱取得率に「仕様」又は「代表試験体」と記載） P30,31：計算（1）、（2）－計算実行①、②（画面更新）

## はじめに

YKK AP住宅省エネ性能計算ソフトは、平成28年省エネルギー基準に準拠した住宅の省エネ性能の計算プログラムです。帳票はそのまま申請に利用できます。  
使用推奨環境

OS	Windows10、Windows11
ブラウザ	Google Chrome最新版
CPU・メモリ容量・通信環境・画面の解像度	上記ブラウザが動作する環境
その他必要なアプリ	Microsoft Excel 2010以降で動作確認済み

※ご利用にあたっての注意事項は、<https://www.ykkap.co.jp/pro/gaihiweb/start.html> にあります。

## 注意

本ソフトで一次エネルギー消費量を計算する場合は、ブラウザの[既定のアプリ]をGoogle Chromeにする必要があります。下記の方法で設定することができます。

① パソコンの[スタートメニュー] (画面左下)をクリックし、[設定]⇒[アプリ]⇒[既定のアプリ]を選択します。

② [Web ブラウザー] で、現在表示されているブラウザーを選択してから、 [Google Chrome]を選択します。

※ Google Chrome をパソコンにインストールしていない場合は、まず [Google Chrome]をダウンロードしてインストールしてください。

## 計算方法

項目	計算方法	根拠資料
一般部位の熱貫流率	簡略計算法を用いて計算	エネルギー消費性能の算定方法※ 第三章 暖冷房負荷と外皮性能 第三節 熱貫流率及び線熱貫流率
土間床等の外周部	変更後の評価法 土間床面(本ソフトでは基礎)の熱損失と基礎壁の熱損失を別々に評価する方法	エネルギー消費性能の算定方法※ 第三章 暖冷房負荷と外皮性能 第三節 熱貫流率及び線熱貫流率 6.2.1、6.2.2
窓の日射熱取得率	暖房期・冷房期の取得日射熱補正係数は9.10.4窓の日射熱取得率 ①②を用いて計算	エネルギー消費性能の算定方法※ 第三章 暖冷房負荷と外皮性能 第二節 外皮性能

※国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報（住宅）」

# 注意事項

1. 長時間、画面を操作しないと自動的にログアウトした状態になります保存していない情報は失われますのでご注意ください
2. 物件編集画面では、こまめに保存することを心がけてください
3. 確定ボタンを押さないと確定しません

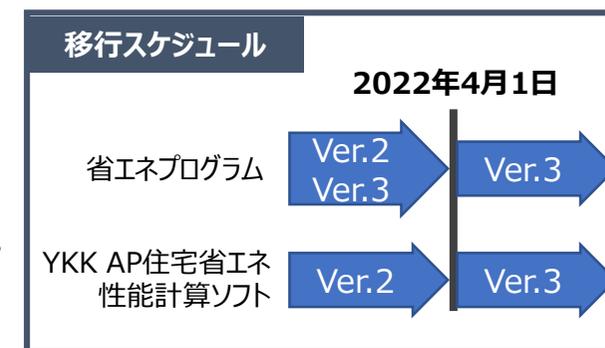
The image shows two screenshots of the YKK AP software interface. The top screenshot is the '簡易計算' (Simple Calculation) screen. It features a navigation bar with buttons for '物件概要' (Property Overview), '屋根天井' (Roof/Ceiling), '外壁' (Exterior Wall), '床' (Floor), '基礎' (Foundation), '窓' (Window), and 'ドア' (Door). A '計算' (Calculate) button is also present. Below the navigation bar, there are input fields for '物件名' (Property Name) and '物件住所' (Property Address). The '物件名' field contains 'テスト' and the '物件住所' field is set to '東京都' (Tokyo). A '保存' (Save) button is highlighted with a red box, and a red callout box above it says 'こまめに押してください' (Please save frequently). The bottom screenshot is the '住宅外皮性能計算プログラム' (Residential Exterior Performance Calculation Program) screen. It shows a '方位' (Orientation) field with buttons for '南' (South), '西' (West), '北' (North), '東' (East), and '上面' (Top). A '確定' (Confirm) button is highlighted with a red box, and a red callout box next to it says '必ず確定ボタンを押します' (Always press the confirm button).

4. 本ソフトのバージョンアップ等のシステム更新後に、画面の表示がずれる場合があります。その際には、**入力データを保存**し、「ctrl」キーと「F5」キーを同時に押して、ブラウザのキャッシュをクリアしてください。

# エネルギー消費性能計算プログラム(住宅版)Ver.3への対応についての注意事項

エネルギー消費性能計算プログラム(以下、省エネプログラム)は、2021年4月1日～2022年3月31日においてVer.2とVer.3の両方が使用できましたが、**2022年4月1日以降は、省エネプログラムVer.3に完全移行します。**

そのため、【YKK AP住宅省エネ性能計算ソフト】もVer.3対応版に更新いたします。更新にともない、【YKK AP住宅省エネ性能計算ソフト】を使用する際の注意事項がありますので、ご確認くださいませようお願いいたします。



## ①新規物件作成方法

- 2022年4月1日以降に作成した物件は、自動的にVer.3対応になります。

## ②2022年3月31日までに作成済み・作成中の物件(Ver.2系)について

- 2022年4月1日以降は、Ver.2での外皮性能計算、一次エネルギー消費量計算を実行することが出来なくなります。
- 申請が2022年4月1日以降となる場合には、**4月1日以降に対象の物件ファイルを開き、再計算してください。**2022年3月31日以前に作成した物件も開くことが可能です。その際の注意事項を[次ページ](#)に示しますのでご確認ください。

# 2022年3月31日以前に作成した物件を使用する場合の注意点

## ①面積比率の変更

屋根・外壁について一般部と熱橋部の面積比率が変更になった工法があります。

下表の工法を用いる場合は、[屋根・天井、外壁、床の詳細入力画面①](#)、[②](#)をご確認上、変更ください。

部位	構法	工法
屋根	軸組	垂木間+付加断熱(横下地)
	枠組	垂木間+付加断熱(横下地)
外壁	軸組	充填+付加断熱(横下地)
		充填+付加断熱(縦下地)
	枠組	充填+付加断熱(横下地)
		充填+付加断熱(縦下地)

## ②基礎の入力方法の変更

基礎の入力方法が、下表のとおり変更されました。

評価方法については、[土間床等の外周部の評価方法①](#)、[②](#)をご確認ください。

また、基礎壁の入力方法は、[基礎壁の入力画面](#)、[基礎の入力画面](#)をご確認の上、変更ください。

	2022年3月31日以前	2022年4月1日以降
基礎の計算方法	土間床面の熱損失と基礎壁(400mmまで)の熱損失を合わせて評価	土間床面の熱損失と基礎壁の熱損失を別々に評価
基礎の入力項目	基礎 (ただし、基礎の外壁部分が400mmを超える場合は、基礎壁を入力する)	基礎壁 基礎

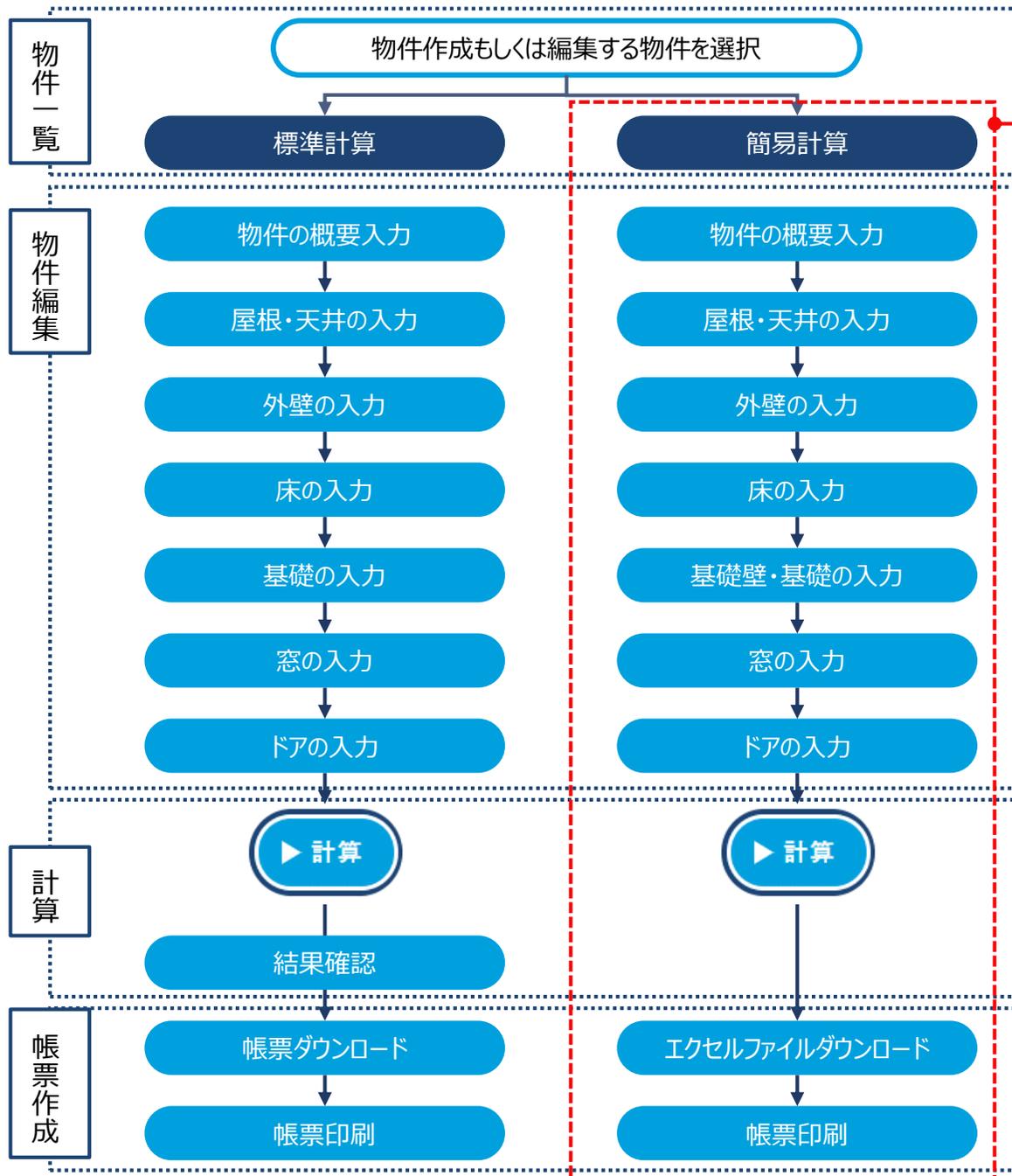
# 制約事項

YKK AP住宅省エネ性能計算ソフトでは、**木造戸建て住宅**のみ評価できます。  
地下のある物件の計算はできません。

1つの物件で入力できる部位の上限数、入力の要否

	部位の上限数	入力の要否
外壁	4	必須
基礎壁	—	必須
窓	50(各方位30)	必須
ドア	5	必須
屋根	4	任意(天井断熱の場合は不要)
天井	4	任意(屋根断熱の場合は不要)
セットバックバルコニー	4	任意(ない場合には不要)
その他の床	4	任意(基礎断熱の場合は不要)
浴室床	2	任意(浴室が基礎断熱の場合は不要)
外気に接する床	4	任意(ない場合には不要)
基礎壁・玄関の基礎壁・ 勝手口の基礎壁・浴室の基礎壁	それぞれ6	必須
基礎・玄関の基礎・ 勝手口の基礎・浴室の基礎	それぞれの外気側2 それぞれの床裏側2	必須

# YKK AP住宅省エネ性能計算ソフトの流れ



本マニュアルは  
こちらの内容になります

**標準計算**  
物件編集から計算、帳票作成  
までブラウザだけで完結します。

**簡易計算**  
物件編集まではブラウザで行い、  
計算、帳票作成はダウンロード  
するエクセルファイルで行います。

## 物件一覧画面

新規物件を作成する際に、「簡易計算で物件作成」を選択してください

作成済みの物件に  
以下の操作をします

- 詳細確認
- 物件編集
- コピー
- 帳票

YKK AP住宅省エネ性能計算ソフト

お問い合わせ | 物件一覧 | ユーザ情報 | ログアウト

### 物件一覧

全149件

<input type="checkbox"/>	物件名	物件住所	計算方法	外皮平均熱貫流率	最終更新日	<input type="button" value="詳細"/>
<input type="checkbox"/>	簡易計算テスト	茨城県つくば1	簡易		2022-3-29 17:11:27	<input type="button" value="詳細"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	標準計算テスト	新潟県新潟市***	標準	0.34	2022-3-29 17:09:46	<input type="button" value="詳細"/>

削除したい物件にチェックを入れます

作成済みの物件一覧です

# 物件詳細画面

「物件一覧」画面で「詳細」を選択した際に表示される画面です(新規物件作成時には表示されません)

The screenshot shows the '物件詳細' (Property Details) interface. At the top, there is a navigation bar with 'YKK AP住宅省エネ性能計算ソフト' on the left and 'お問い合わせ | 物件一覧 | ユーザ情報 | ログアウト' on the right. Below the navigation bar, the title '物件詳細' is centered. A horizontal menu contains several tabs: '物件概要', '屋根天井', '外壁', '床', '基礎', '窓', and 'ドア'. The '物件概要' tab is highlighted with a red dashed box, and a red line points to it with the text '確認したい入力情報を表示します'. Below the tabs is a '戻る' (Back) button. To the right of the tabs are three action buttons: 'コピー', '編集', and '帳票', each with a red dot and a line pointing to an explanatory text box. Above the '削除' (Delete) button, there is a red line pointing to the text '物件を削除します クリックすると表示されます'. Below the '戻る' button is the section '物件の概要' (Property Overview), which contains a table with the following data:

物件名	テスト
物件住所	東京都 豊島区 西池袋
地域区分	6地域
階数	2階建て
	...

At the bottom right, a red line points from the '帳票' button to the text '帳票のダウンロード画面に移動します'. At the bottom center, a red line points from the 'コピー' button to the text '物件をコピーします'. At the bottom left, a red line points from the '編集' button to the text '物件を編集します'.

# 物件編集画面の共通ルール

編集する画面にジャンプします

採用されている計算方法です

現在の入力情報を保存します



必須入力項目です

1. 物件の概要を入力してください。

リストから選択します

該当するものを選択します

ガイドが表示されて  
入力方法の解説が  
表示されます

物件名 **必須**

物件住所 **必須** 都道府県 **東京都** ▼  
市区町村   
町名・番地

地域区分 **必須**  ▼

階数 **必須**

窓の緩和利用 **必須**

床面積

延床面積 **必須**  m<sup>2</sup>

主たる居室  m<sup>2</sup>

その他の居室  m<sup>2</sup>

非居室  m<sup>2</sup>

ガイドを表示



値を直接入力します  
面積の入力については小数点以下2桁で入力してください

# 物件編集画面（1）－物件概要①

窓の緩和を利用する場合には、「使う」を選択してください

1. 物件の概要を入力してください。

物件名 **必須**

物件住所 **必須**

都道府県

市区町村

町名・番地

地域区分 **必須**

階数 **必須**

窓の緩和利用 **必須**

床面積

延床面積 **必須**  m<sup>2</sup>

主たる居室  m<sup>2</sup>

その他の居室  m<sup>2</sup>

非居室  m<sup>2</sup>

屋根・天井の断熱位置 **必須**

都道府県名または市町村名

都道府県名または市区町村名を入力してください

都道府県名または市町村名を入力してください  
東京都23区は、「23区」と入力ください

都道府県名または市町村名

都道府県名	市町村名	地域区分
北海道	札幌市	2地域

クリックすると地域区分が入力されます

■ 窓の緩和利用とは  
[熱貫流率に関して]  
対象の窓面積合計が、床面積の2%以下である場合  
評価対象外とすることができます

[日射熱取得率に関して]  
対象の窓面積合計が、床面積の4%以下である場合  
評価対象外とすることができます

窓の緩和利用を「使う」場合には、延床面積を必ず入力してください  
その際、図面に記載の延床面積を小数点以下2桁で入力してください  
また、仮想床がある場合には、床面積には仮想床面積を含まない数値を入力してください  
なお、窓の緩和利用を「使わない」を選択した場合、床面積の入力部分は表示されません

# 物件編集画面（2）－物件概要②

それぞれ、該当する箇所を選択します

それぞれの場所の断熱位置を選択します

断熱位置 <b>必須</b>	屋根・天井の断熱位置 <b>?</b> <b>必須</b>	屋根	天井	併用
	床・基礎の断熱構造 <b>?</b> <b>必須</b>	床断熱	基礎断熱	併用
	玄関下部の断熱位置(1階) <b>?</b> <b>必須</b>	基礎断熱		
	勝手口下部の断熱位置(1階) <b>?</b> <b>必須</b>	基礎断熱	その他	
	浴室下部の断熱位置(1階) <b>?</b> <b>必須</b>	床断熱	基礎断熱	その他
	外気に接する床（ピロティ等）の有無 <b>?</b> <b>必須</b>	あり	なし	
	セットバックバルコニーの有無 <b>?</b> <b>必須</b>	あり	なし	

**注意事項**

**注意事項**

「基礎断熱」を選択した場合  
 簡易計算には、「基礎壁1」と「玄関の基礎壁1」  
 「基礎1」と「玄関の基礎1」が必要になります  
 「基礎壁1」と「玄関の基礎壁1」、「基礎1」と「玄関の基礎1」の仕様  
 が同じ場合においても、1つにまとめず、両方の仕様を入力してください

1階部分がすべて「基礎断熱」であり、  
 2階等に「外気に接する床(ピロティ等)」がある場合は「併用」を選択して  
 ください  
 その際、「4.床について入力してください。」の「その他の床1」の採用の  
 チェックを外してください

基礎壁1 <input checked="" type="checkbox"/>	基礎1 <input checked="" type="checkbox"/>
熱貫流率計算法 <b>必須</b>	熱貫流率計算法 <b>必須</b>
基礎の形式 <b>?</b> <b>必須</b>	基礎の形式 <b>?</b> <b>必須</b>
基礎壁種類 <b>?</b> <b>必須</b>	基礎壁種類 <b>?</b> <b>必須</b>
断熱材入力名称 <b>?</b> <b>必須</b>	断熱材入力名称 <b>?</b> <b>必須</b>

4. 床について入力してください。

その他の床1 <input type="checkbox"/>	チェックを外す	
熱貫流率計算法 <b>必須</b>	計算	直接入力
断熱位置 <b>?</b> <b>必須</b>	根太間断熱(床梁工法)	根太間断熱(東立大引工法)
	根太間断熱+大引間断熱	剛床工法
断熱材入力名称 <b>?</b> <b>必須</b>	商品名	一般名 一般名(JIS)

# 物件編集画面（3）－屋根・天井、外壁、床

当該部位を外皮性能の計算に含める場合は☑してください

熱貫流率をここで計算するか、別途計算した熱貫流率を入力するか選択します

## 直接入力の場合

熱貫流率を直接入力します

カタログなどを添付する際の資料番号などを記述してください  
審査がスムーズに進みます

屋根1  
熱貫流率U値 0.500 W/mK

## 2. 屋根・天井について入力してください。

屋根1 採用 ☑

熱貫流率計算法 必須

断熱位置 ? 必須

断熱材入力名称 ? 必須

備考

屋根1  
熱貫流率U値 0.248 W/m<sup>2</sup>K

⊕ 屋根を追加

## 計算の場合

## 詳細入力

詳細入力をクリックします

## 注意事項

断熱材入力名称を変更する際には、「詳細入力」を閉じてから変更してください  
開いたまま変更すると、「詳細入力」に入力したものが消去されます

部位の断熱位置を選択します  
断熱材の選択方法を選びます

部位を複製します

部位を削除します

新しい部位を追加します

一般部位の仕様（建材、厚さ）を入力する画面を表示します  
⇒詳しくは[屋根・天井、外壁、床の詳細入力画面①](#)

# 物件編集画面（４）－屋根・天井、外壁、床の詳細入力画面①

部位の室外側の条件を選択します

建材の選択方法を選びます

断熱位置が「外張断熱(受け材あり)」等の場合  
断熱材の熱抵抗低減率を考慮するため、を入力する  
必要があります  
⇒詳しくは[屋根・天井、外壁、外床の詳細入力画面②](#)

「軸組構法において充填断熱する場合」の熱貫流率を詳細入力

選択	入力方法	必須	分類・建材等名称	必須	熱抵抗低減	厚さ mm	熱伝導率 W/(mK)	熱抵抗 mK/W	断熱部 83%	断熱部+熱橋部 0%	熱橋部 17%									
	室外側の表面熱伝達抵抗 通気層等							0.11												
<input type="checkbox"/>	材料名	直接入力	木質系壁材・下地材	合板	-	12	0.1600	0.075	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>									
<input type="checkbox"/>	材料名	直接入力	面材で密閉された空気層	面材で密閉された空気層	-	15		0.090	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>									
	建材名称 高性能品HG20-38																			
<input type="checkbox"/>	材料名	直接入力	根拠資料		-	90	0.000	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									
	断熱材区分 <input checked="" type="checkbox"/> 断熱材 <input type="checkbox"/> 非断熱材																			
<input type="checkbox"/>	材料名	直接入力	木質系壁材・下地材	天然木材	-	90	0.1200	0.750	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>									
<input type="checkbox"/>	材料名	直接入力	非木質系壁材・下地材	せっこうガード(GB-R、GB-D、GB-L、GB-NC)	-	12.5	0.2210	0.057	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>									
	室内側の表面熱伝達抵抗							0.11												
<input type="button" value="選択行を削除"/> <input type="button" value="選択行の上に追加"/> <input type="button" value="選択行の下に追加"/>					<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;">断熱・熱橋部の厚さの合計が一致するように入力してください</div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>厚さ[mm]</th> <th>117</th> <th>129.5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各断面の熱抵抗の合計[mK/W]</td> <td>0.385</td> <td>1.192</td> </tr> <tr> <td>各断面の熱貫流率の合計[W/m<sup>2</sup>K]</td> <td>2.597</td> <td>0.839</td> </tr> </tbody> </table>							厚さ[mm]	117	129.5	各断面の熱抵抗の合計[mK/W]	0.385	1.192	各断面の熱貫流率の合計[W/m <sup>2</sup> K]	2.597	0.839
厚さ[mm]	117	129.5																		
各断面の熱抵抗の合計[mK/W]	0.385	1.192																		
各断面の熱貫流率の合計[W/m <sup>2</sup> K]	2.597	0.839																		
<input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="確定"/>																				

新たな建材を追加、不要な建材を削除します

入力が完了したら「確定」を押します

直接入力で、断熱位置が下記の場合、断熱材区分を選択します  
 屋根：外張断熱(受け材あり)、垂木間+付加断熱(横下地)  
 外壁：外張断熱(受け材あり)、充填+付加断熱(横下地)  
 充填+付加断熱(縦下地)

断熱・熱橋部の厚さの合計値が一致しない場合にエラーメッセージが表示されます

当該行の建材が含まれる部分にします  
各部分の合計厚さが一致するように入力してください

# 物件編集画面（5）－屋根・天井、外壁、床の詳細入力画面②

**屋根：外張断熱(受け材あり)、垂木間+付加断熱(横下地)**  
**外壁：外張断熱(受け材あり)、充填+付加断熱(横下地)、充填+付加断熱(縦下地)**  
 を選択した場合、外張断熱部材・付加断熱部材の熱抵抗に0.9を乗じて計算する必要があります

断熱材の熱抵抗低減率を考慮するため  
 外張断熱部材・付加断熱部材の熱抵抗低減欄を  
 ①します。断熱材の熱抵抗に0.9を乗じて計算します

外壁1 採用

熱貫流率計算法 **必須** 計算 直接入力

断熱位置 **必須** 充填断熱 外張断熱(受け材あり) 外張断熱(受け材なし) 充填+付加断熱(横下地) 充填+付加断熱(縦下地)  
充填+付加断熱(受け材なし)

断熱材入力名称 **必須** 商品名 一般名 一般名(JIS)

「軸組構法において充填+付加断熱(横下地)する場合」の熱貫流率を詳細入力

選択	入力方法 <b>必須</b>	分類・建材等名称 <b>必須</b>	熱抵抗低減	厚さ mm <b>必須</b>	熱伝導率 W/(mK)	熱抵抗 mK/W	断熱部 83%	断熱部-熱橋部 0%	熱橋部 0%	熱橋部 17%
		室外側の表面熱伝達抵抗 通気層等				0.11				
<input type="checkbox"/>	材料名 直接入力	フェノールフォーム フェノールフォーム保温板1種2号	<input checked="" type="checkbox"/>	100	0.022	4.091	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	材料名 直接入力	木質系壁材・下地材 合板	<input type="checkbox"/>	9	0.16	0.056	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	材料名 直接入力	グラスウール 高性能グラスウール断熱材40K相当	<input type="checkbox"/>	100	0.034	2.941	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	材料名 直接入力	木質系壁材・下地材 天然木材	<input type="checkbox"/>	100	0.12	0.833	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
		室内側の表面熱伝達抵抗				0.11				
<input type="button" value="選択行を削除"/> <input type="button" value="選択行の上に追加"/> <input type="button" value="選択行の下に追加"/>				厚さ [mm]	209	209				
				各断面の熱抵抗の合計 [mK/W]	7.308	5.200				
				各断面の熱貫流率の合計 [W/mK]	0.137	0.192				

キャンセル 確定

当該行の  
 建材が含まれる部分に①します  
 各部分の合計厚さが一致するように  
 入力してください

# 土間床等の外周部の評価方法①

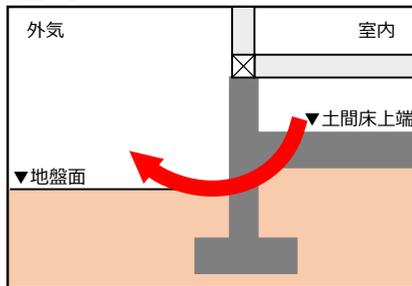
基礎の評価方法が2021年4月から変更になりました。

本ソフトの標準計算ルートでは、従来の評価方法で計算しますが、簡易計算ルートでは変更後の評価方法で計算します

## ■ 変更後の評価方法(本ソフト)

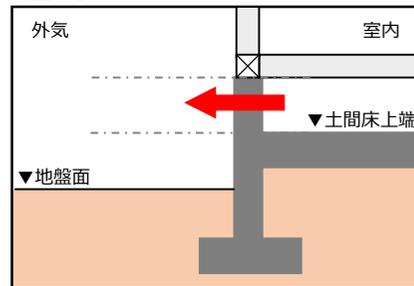
土間床等の外周部(本ソフトでは基礎)の熱損失と基礎壁の熱損失を別々に評価

### 基礎



線熱貫流率( $\psi$ )には、土間床等の外周部の熱損失のみ含まれます。地盤面から400mmまでの基礎壁の熱損失は含みません

### 基礎壁

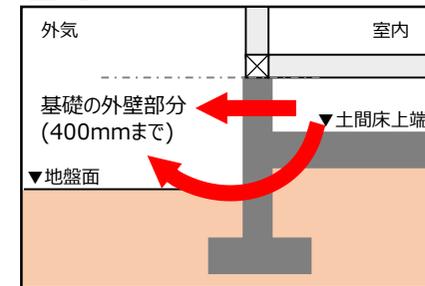


基礎の高さに関わらず、全て外壁と同じように熱貫流率を計算して評価します

## ■ 従来の評価方法

土間床等の外周部の熱損失と基礎壁(400mmまで)の熱損失を合わせて評価

### 基礎

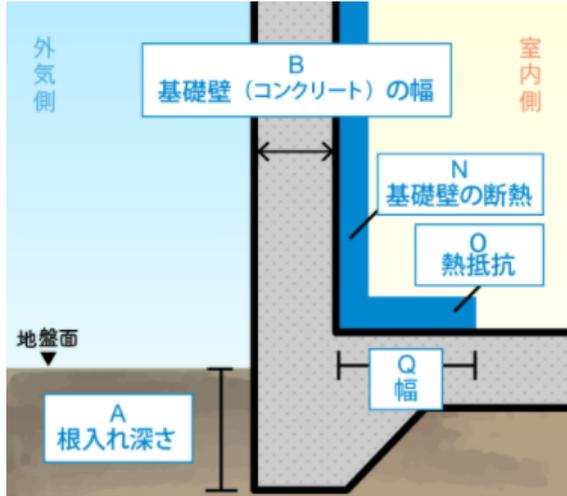
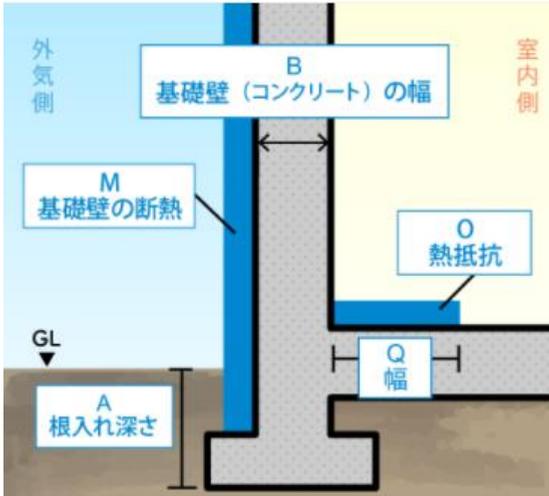


線熱貫流率( $\psi$ )には、土間床等の外周部の熱損失に加え、地盤面から400mmまでの基礎の外壁部分の熱損失を含みます

なお、基礎の外壁部分が400mm以上ある場合には、400mmより高い部分について、外壁と同じように熱貫流率を計算します

# 土間床等の外周部の評価方法② 基礎の適用条件

基礎の形状と適用条件は下表のとおりです。「内側断熱・べた基礎」、「外側断熱・布基礎」に合わない場合は、その他 を選択してください

	内側断熱・べた基礎		外側断熱・布基礎		その他
基礎の形状					問わない
A.根入れ深さ	300mm以下		500mm以上		問わない
B.基礎幅	120mm以上		120mm以上		問わない
E.土間床上端の位置	地盤面と同じか高い		地盤面と同じか高い		問わない
M・N.基礎壁の断熱材の熱抵抗	1.0㎡K/W以上		1.0㎡K/W以上		問わない
O.土間床面の断熱材の熱抵抗	0~1.0㎡K/W未満	1.0㎡K/W以上	0~1.0㎡K/W未満	1.0㎡K/W以上	問わない
Q.土間床面の断熱材の水平長さ	300mm未満	300mm以上	300mm未満	300mm以上	問わない

※O.土間床面の断熱材の熱抵抗 とQ.土間床面の断熱材の水平長さは、赤で囲んだ組合せにする必要がある。

# 物件編集画面（6）－基礎・土間床①基礎壁の入力画面

**注意事項**

「床・基礎の断熱構造」が「基礎断熱」の場合もしくは「併用」の場合についての注意事項は **物件概要②** をご確認ください

当該基礎を外皮性能の計算に含める場合は☑してください

基礎の熱貫流率をここで計算するか、熱貫流率の値を直接入力するか選択します

基礎壁の位置を選択します

断熱材の選択方法を選択します

5. 基礎・土間床について入力してください。

**基礎壁1**  採用

熱貫流率計算法  計算  直接入力

基礎壁種類  基礎壁(外気)  基礎壁(床裏)

断熱材入力名称  商品名  一般名  一般名(JIS)

「軸組構法において基礎壁(外気)する場合」の熱貫流率を詳細入力

選択	入力方法	分類・建材等名称	熱抵抗抵減	厚さ mm	熱伝導率 W/(mK)	熱抵抗 mK/W	断熱部 100%	断熱部-熱橋部 0%	熱橋部 0%
		室外側の表面熱伝達抵抗 外気				0.04			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 直接入力	材料名: コンクリート系材料 コンクリート	-	120	1.6000	0.075	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 直接入力	材料名: 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種aB	-	30	0.0260	1.154	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 直接入力	材料名: 分類	-		-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 直接入力	材料名: 分類	-		-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		室内側の表面熱伝達抵抗				0.11			
選択行を削除				厚さ [mm]		150			
選択行の上に追加				各断面の熱抵抗の合計[mK/W]		1.379			
選択行の下に追加				各断面の熱貫流率の合計[W/mK]		0.725			

キャンセル 確定

当該行の建材が含まれる部分に☑します

# 物件編集画面（7）－基礎・土間床②基礎の入力画面

**注意事項**

「床・基礎の断熱構造」が「基礎断熱」の場合もしくは「併用」の場合についての注意事項は **物件概要②** をご確認ください

当該基礎を外皮性能の計算に含める場合は☑してください

「基礎の形式」のガイドを参考に、基礎の形式を選択後、断熱材や寸法を入力します  
基礎の適用条件は **基礎の適用条件** をご確認ください

**基礎1**  採用

線熱貫流率計算法  必須 計算 直接入力

基礎の形式  必須 内側断熱・ベタ基礎 外側断熱・布基礎 その他

建材入力方法  必須 商品名 一般名 一般名(JIS) 直接入力

入力する部位  必須 外気側 床裏側

土間床上端  必須 地盤面と同じか高い 地盤面より低い

<b>M</b>	分類	選択してください
	厚さ	<input type="text"/> mm
	熱抵抗	- mK/W
<b>N</b>	分類	選択してください
	厚さ	<input type="text"/> mm
	熱抵抗	- mK/W
<p><b>!</b> 断熱材の熱抵抗は1.0mK/W以上かつ10.0mK/W以下になるよう入力して下さい。</p>		
<b>O</b>	分類	選択してください
	厚さ	<input type="text"/> mm
	熱抵抗	- mK/W

<b>E</b>	土間床上端と地盤面の高さの差 <input checked="" type="checkbox"/> ?	<input type="text"/> mm
<b>A</b>	根入れ深さ <input checked="" type="checkbox"/> 必須	<input type="text"/> mm 適用範囲は300mm以下です。
<b>B</b>	基礎壁の幅	<input type="text"/> mm 適用範囲は120mm以上です。
<b>Q</b>	土間床上端の上に設置する断熱材の壁から室内側の水平長さ	<input type="text"/> mm

基礎の位置を選択します

断熱材の選択方法を選びます

## 物件編集画面（8）－基礎・土間床③基礎の入力画面つづき

分類  ▼

厚さ  mm

熱伝導率 - W/mK

熱抵抗 - m<sup>2</sup>K/W

備考

床裏側の入力  「玄関の基礎2」として入力項目が追加されます。

基礎を削除します

玄関の基礎1  
線熱貫流率ψ値 **1.040** W/mK

基礎を複製します

入力している土間が床裏側にも面している場合は「床裏側を入力」をクリックしてください。ここで入力した情報を引き継いで床裏側を入力することができます

# 物件編集画面（9）－窓

## 6. 窓について入力してください。

### 窓リスト

庇の入力はありません。エネルギー消費性能の算定方法、第三章第四節付録Bに基づき、取得日射熱補正係数は、暖房期0.51、冷房期0.93のデフォルト値を使用しています。

チェック	窓記号/設置位置/材料入力名称	サイズ・付属部材	熱貫流率	日射熱取得率
------	-----------------	----------	------	--------

⊕ 窓を追加

窓を追加ボタンを押すと窓編集画面が開きます  
⇒詳しくは[窓編集画面①](#)

# 物件編集画面 (10) – 窓編集画面①

窓記号は物件内で重複しないようにつけてください

## 注意事項

審査がスムーズに進むように窓記号は必須項目にしています

## 便利な使い方

窓記号を図面の窓記号と揃えると審査がスムーズに進みます

方位を選択すると、帳票に記載されるため分かりやすくなります。

YKK APの窓の場合は「商品名」をそれ以外は「直接入力」を選んでください

リストをクリックすると窓が選択できます

### ■ 代表試験体とは

商品・窓種ごとに熱貫流率、日射熱取得率を規定しており、YKK APホームページに性能値が公開されています

### ■ 仕様とは

建具とガラスの組み合わせによって熱貫流率を規定しています。代表試験体よりも熱貫流率が大きく設定される傾向があります

### ■ 熱貫流率について

熱貫流率は、ガラスの厚さ・種類（一般・合わせ・Low-Eガラスカー等）と中空層の厚さの組み合わせにより、中空層の厚さが同じでも熱貫流率が同じにはならない組み合わせが存在します

その場合は、熱貫流率の数値が大きい方の数値を表記するようにいたしておりますので、自己適合宣言付属書の値と一致しない場合もございます

夏期の日射熱取得率を入力してください

根拠資料：カタログなどを添付する際の資料番号などを記述してください  
審査がスムーズに進みます

入力情報を破棄して窓編集画面を閉じます

「建具の仕様」、「商品シリーズ」、「ガラス種」で商品を絞り込みます

使用する熱貫流率を選択して下さい（申請時に添付する書類が異なります）

## 注意事項

全ての窓を「利用する」とすると計算できません

## 物件編集画面（11） – 窓編集画面②

熱貫流率の緩和もしくは日射熱取得率の緩和を利用する時には、面積の入力が必要となります  
なお、緩和利用を「利用しない」の場合、面積の入力は不要のため、面積の欄は表示されません

熱貫流率の2%緩和利用  利用する  利用しない

日射熱取得率の4%緩和利用  利用する  利用しない

面積  必須

呼称入力 幅・高さ

呼称を半角数字5桁もしくは6桁で入力してください。

呼称  検索  呼称名 「16511」

幅 1650.0 mm 高さ 1100.0 mm 面積 1.815 m<sup>2</sup>

設置階  選択しない  1階  2階

備考

熱貫流率U値 1.56 W/m<sup>2</sup>K | 日射熱取得率η値 0.29

緩和を利用する場合、「利用する」を選択します

呼称を入力後、検索ボタンを押すと面積が自動的に計算されます

入力情報を反映して物件編集画面に戻ります

# 物件編集画面（12） – 窓リスト

当該窓を外皮性能の計算に含める場合は☑してください  
（一時的に計算に含めたくない場合に☑を外してください）

## 6. 窓について入力してください。

窓リスト

底の入力は必要ありません。エネルギー消費性能の算定方法、第三章第四節付録Bに基づき、取得日射熱補正係数は、暖房期0.51、冷房期0.93のデフォルト値を使用しています。

チェック	窓記号/材料入力名称	サイズ	熱貫流率	日射熱取得率
採用 <input checked="" type="checkbox"/>	AW-1 <span style="background-color: #ccc; padding: 2px;">熱貫流率2%緩和</span> <span style="background-color: #ccc; padding: 2px;">日射熱取得率4%緩和</span>	幅 1650.0mm	<div style="background-color: #00aaff; color: white; padding: 2px;">代表試験体</div> <b>1.56</b> W/m <sup>2</sup> K	<div style="background-color: #00aaff; color: white; padding: 2px;">仕様</div> <b>0.29</b>
編集	樹脂 APW330/APW331 高さ 1100.0mm			
コピー	ガス入/Low-E複層(G14)/日射遮蔽型ブルー・ブロンズ/樹脂スペーサー			
削除	引違い 2枚建 1870<W、4枚建(シャッター付合)			

⊕ 窓を追加

入力済みの窓を編集、コピー、削除するときに押します

### 便利な使い方

1つの物件では建具の仕様、商品シリーズ、ガラス種は共通の場合が多いと思います。  
1つ目の窓を登録後、「コピー」をして「編集」画面から方位、設置部位、窓種を順次変更すると窓数が多くても短時間で入力することができます。

# 物件編集画面（13） - ドア

7. ドアについて入力してください。

## ドアリスト

チェック	ドア記号/設置位置/材料入力名称	サイズ・付属部材	熱貫流率	日射熱取得率
------	------------------	----------	------	--------

⊕ ドアを追加

ドアを追加ボタンを押すとドア編集画面が開きます  
⇒詳しくは[ドア編集画面](#)

# 物件編集画面 (14) - ドア編集画面

ドア記号とは、D-1等のドアの番号のことです。  
 ドア記号は物件内で重複しないようにつけてください。

### 注意事項

審査がスムーズに進むようにドア記号は必須項目にしています

### 便利な使い方

ドア記号を図面と揃えると審査がスムーズに進みます

YKK APのドアの場合は「商品名」をそれ以外は「直接入力」を選んでください

リストをクリックするとドアが選択できます

AP住宅省エネ性能計算ソフト

ドア記号 **必須** D-1

商品 **必須** 商品名 直接入力

ヴェナート D30 片開き  
 組立完成品  
 D2仕様 ドア本体:採光無

熱貫流率 日射熱取得率  
 代表試験体 1.79W/m<sup>2</sup>K 0.06  
 仕様 1.90W/m<sup>2</sup>K

ヴェナート D30 親子子扉採光無  
 組立完成品  
 D2仕様 ドア本体:採光無

熱貫流率 日射熱取得率  
 代表試験体 1.79W/m<sup>2</sup>K 0.06  
 仕様 1.90W/m<sup>2</sup>K

ヴェナート D30 親子子扉採光付  
 組立完成品  
 D2仕様 ドア本体:採光無

熱貫流率 日射熱取得率  
 代表試験体 2.25W/m<sup>2</sup>K 0.08

ヴェナート D30 親子子扉採光付通風  
 組立完成品  
 D2仕様 ドア本体:採光無

熱貫流率 日射熱取得率  
 代表試験体 2.28W/m<sup>2</sup>K 0.08  
 仕様 2.91W/m<sup>2</sup>K

ヴェナート D30 片開き  
 組立完成品  
 D2仕様 ドア本体:採光付

熱貫流率 日射熱取得率  
 代表試験体 2.25W/m<sup>2</sup>K 0.08  
 仕様 2.33W/m<sup>2</sup>K

ヴェナート D30 親子子扉採光無  
 組立完成品  
 D2仕様 ドア本体:採光付

熱貫流率 日射熱取得率  
 代表試験体 2.25W/m<sup>2</sup>K 0.08

備考

熱貫流率U値 1.79 W/m<sup>2</sup>K | 日射熱取得率η値 0.06

キャンセル 確定

入力情報を破棄してドア編集画面を閉じます

「商品シリーズ」、「枠」、「ガラス種」で商品を絞り込めます

使用する熱貫流率を選択して下さい(申請時に添付する書類が異なります)

### 直接入力の場合

根拠資料：  
 カタログなどを添付する際の資料番号などを記述してください  
 審査がスムーズに進みます

## 物件編集画面（15）－ドアリスト

当該ドアを外皮性能の計算に含める場合は☑してください  
(一時的に計算に含めたくない場合に☑を外してください)

## 7. ドアについて入力してください。

## ドアリスト

チェック	ドア記号/設置位置/材料入力名称	サイズ	熱貫流率	日射熱取得率
<input checked="" type="checkbox"/>	D-1			
<input type="checkbox"/>	ヴェナート D30 <span>片開き</span>		代表試験体	代表試験体
	組立完成品		1.79	0.06
	D2仕様 ドア本体:採光無		W/m <sup>2</sup> K	

⊕ ドアを追加

入力済みのドアを  
編集、コピー、削除する  
ときに押します

## 計算（1）－計算実行①

一通りの物件情報の入力が終わったら、上部の計算ボタンを押してください  
入力情報のチェック後、帳票ダウンロード画面に移ります

YKK AP住宅省エネ性能計算ソフト 簡易計算

物件概要 屋根天井 外壁 床 基礎 窓 ドア **▶ 計算** 見積連携 キャンセル 保存

### ドアリスト

チェック	ドア記号/設置位置/材料入力名称	サイズ	熱貫流率	日射熱取得率
<input checked="" type="checkbox"/>	<b>D-1</b> ヴェナート D30 片開き 組立完成品 D2仕様 ドア本体:採光無		代表試験体 <b>1.79</b> W/m <sup>2</sup> K	代表試験体 <b>0.06</b>

編集 コピー 削除

⊕ ドアを追加

## 計算（2）－計算実行②

入力に問題がある場合は、この欄にエラーが出力されますので、入力し直してください

YKK AP住宅省エネ性能計算ソフト 簡易計算 お問い合わせ | 物件一覧 | ユーザ情報 | ログアウト

物件概要 | 屋根天井 | 外壁 | 床 | 基礎 | 窓 | ドア | **▶計算** | 見積連携 | キャンセル | 保存

- 延床面積が入力されていません。
- 浴室床1の層が入力されていません。
- 玄関の基礎1のN建材の厚さは0より大きい値である必要があります。
- 玄関の基礎1のN建材の熱抵抗は1以上10以下である必要があります。

? ガイドを表示

### 1. 物件の概要を入力してください。

物件名 <small>必須</small>	<input type="text" value="テスト"/>	
物件住所 <small>必須</small>	都道府県	<input type="text" value="東京都"/>
	市区町村	<input type="text" value="豊島区"/>
	町名・番地	<input type="text" value="西池袋"/>
地域区分 <small>必須</small>	<input type="text" value="6地域"/>	<span>地域区分を検索する</span>
階数 <small>必須</small>	<input type="text" value="平屋"/> <input checked="" type="text" value="2階建て"/> <input type="text" value="3階建て"/>	
窓の緩和利用 <small>必須</small>	<input checked="" type="text" value="使う"/> <input type="text" value="使わない"/>	
床面積	延床面積 <small>必須</small>	<input type="text"/> m <sup>2</sup>
	主たる居室	<input type="text"/> m <sup>2</sup>
	その他の居室	<input type="text"/> m <sup>2</sup>

# 帳票（1）－帳票ダウンロード

審査に提出する帳票はExcelファイルをダウンロードして印刷してください  
 名称が「外皮性能計算書【簡易計算】.xlsx」のファイルが、ブラウザで設定された指定のフォルダにダウンロードされます  
 （初期設定によっては、「ダウンロード」フォルダに保存される場合もあります）

戻る

計算結果のExcelファイルは、以下のボタンからダウンロードできます。  
 Excelの印刷機能を用いて、入力のある全てのシートを印刷して、帳票を出力してください。

Excelファイルをダウンロード

Excelファイルの「窓の入力」「ドアの入力」シートには、附属書No.や自己適合宣言No.が表示されます。  
 性能証明としてご使用になる場合は、以下の書類の添付が必要です。ダウンロードしてご利用ください。

「大部分が透明材料で構成されている開口部（開口部区分「窓」）となる日射熱取得率は、『開口部の仕様別日射熱取得率とYKK AP製ガラス一覧』の値（仕様値）を用いております。

なお、開口部区分「窓」となる「袖および欄間付きドア等」の日射熱取得率は、自己適合宣言書・附属書の値（代表試験体の値）を用いております。

詳細は、Excelファイルの「窓の入力」で確認することができます。

代表試験体を選んだ  
窓・ドアについては、  
こちらのPDFを  
申請時に添付して下さい

仕様を選んだ  
窓・ドアについては、  
こちらのPDFを  
申請時に添付して下さい

	附属書No.	自己適合宣言書	仕様値
窓	APF0065-2	APS0001	開口部の日射熱取得率 開口部の熱貫流率 (窓・框ドア・引戸)
ドア	APF0217	APS0002	開口部の日射熱取得率 開口部の熱貫流率と日射熱取得率 (玄関ドア・引戸)

開口部区部「窓」となる  
「袖および欄間付きドア等」の  
日射熱取得率は、こちらのPDFを  
申請時に添付して下さい

アルミ樹脂複合 エピソードNEO

ガス入/Low-E複層(G14以上)/日射取得型ニュートラル/アルミスペーサー

片上げ下げ窓(両格子付)

熱貫流率

代表試験体 1.83W/m<sup>2</sup>K

仕様 2.33W/m<sup>2</sup>K

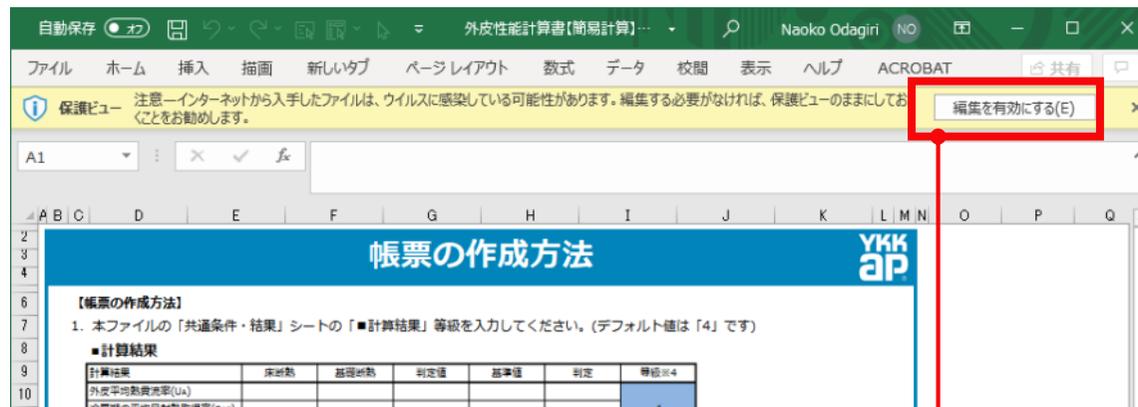
日射熱取得率

0.51

# 帳票（２） – ファイルの開き方

「外皮性能計算書【簡易計算】.xlsx」ファイルには、計算結果が出力されます。  
基本的には、「帳票の作成方法」以外のシートを選択して、Excelの印刷機能を使って印刷して、  
審査機関に提出してください。

## ■ ファイルの開き方



クリックします

# 帳票 (3) - 「共通条件・確認」シート

## ■「共通条件・確認」シート

住宅の外皮平均熱貫流率及び平均日射熱取得率 (冷房期・暖房期) 計算書【簡易計算】													YKK AP	
-H28年省エネルギー基準に基づく (木造戸建て住宅) -														
													作成日 2022年3月19日	
<b>■基本情報の入力</b>														
住宅の名称	簡易テスト										住宅の規模	地上	1	階
住宅の所在地	都道府県	茨城県	市町村	つくば	町名・番地	1	地域区分	5	地域					
窓の緩和利用	使う													
床面積㎡ ※1	主たる居室	81.2	その他の居室	2	非居室	15	合計	98.2						
工法	枠組壁工法													
断熱構造による住戸の種類 ※2	床断熱													
浴室の断熱構造	床断熱													
※1: 窓緩和面積計算用に使用(※仮想床が発生する場合は、仮想床面積を含まない数値とする)														
※2: 玄関等と浴室を除いた部分の外皮の断熱構造により分類される住戸の種類のこと														
<b>■熱性能値の一覧</b>														
熱貫流率 W/mK					線熱貫流率 W/mK					窓		ドア		
屋根	外壁	床 ※3 (その他)	床 (浴室)	基礎 (玄関等)	基礎 ※3 (玄関)	基礎 ※3 (浴室)	土間床等 (玄関等)	土間床等 (浴室)	土間床等 (その他)	熱貫流率 W/(㎡・K)	垂直面日射熱取得率	熱貫流率 W/mK		
0.358	0.256	0.343	0.2	0.232			0.400			0.780	冷房期	暖房期	3.370	
※3: 玄関等と浴室を除く部分の床のこと														
<b>■計算結果</b>														
計算結果	床断熱	基礎断熱	判定値	基準値	判定	等級 ※4	※4: 断熱等性能等級の入力 「等級2」の場合⇒2 「等級5」の場合⇒5 「等級3」の場合⇒3 「等級4」の場合⇒4 を入力してください。 平成28年省エネルギー基準の適合判定 をする場合は「4」と入力してください。							
外皮平均熱貫流率(Ua)	0.38		0.38	0.87	適合	4								
冷房期の平均日射熱取得率(ηac)	1.7		1.7	3.0	適合									
暖房期の平均日射熱取得率(ηah)	1.7		1.7	-	-									
【参考】 ZEH強化外皮基準 基準値一覧 ※省エネ基準に適合しているものとする。														
地域の区分	1、2地域	3地域	4～7地域											
外皮平均熱貫流率(Ua)	0.4以下	0.5以下	0.6以下											
判定	-	-	適合											
<b>■一次エネルギー消費量の計算をする</b>														
一次エネルギー消費量の計算を行う場合は以下のリンクをクリックしてください。														
<a href="#">計算ページへ</a>														
注: 計算方法・条件等につきましては、下記のホームページをご確認ください。														
<a href="#">YKK AP住宅省エネ性能計算ソフト ご利用にあたって</a>														

断熱等性能等級を入力します  
デフォルト値は「等級4」となっています

外皮計算結果の適合判定結果です

# 帳票（４）－「熱貫流率」シート

## ■「屋根・天井の熱貫流率」・「外壁の熱貫流率」・「床（その他）の熱貫流率」・「床(浴室)の熱貫流率」シート の見方

屋根・天井・セットバックバルコニーの熱貫流率1							
部位	備考	部位名称			熱貫流率計算方法		
屋根		屋根1			計算		
断熱工法等		部位名	一般部	一般部+断熱部	熱橋部		
垂木間断熱		熱橋面積比	0.86		0.14		
分類 (直接入力の場合: 建材名称)	材料名 (直接入力の場合: 根拠資料)	厚さ d mm	熱伝導率 λ W/mK	低減 断熱材	d / λ mK/W		
室外側の表面熱伝達抵抗 R <sub>se</sub>	外気	-	-	-	0.04		0.04
グラスウール	通常品10-49	10	0.049		0.204		-
木質系壁材・下地材	合板	10	0.160		-		0.063
室内側の表面熱伝達抵抗 R <sub>si</sub>		-	-	-	0.09		0.09
各断面の熱抵抗の合計	ΣR		mK/W		0.334		0.193
各断面の熱貫流率	U		W/mK		2.993		5.195
熱貫流率	U		W/mK		3.301		

面積比率

部分ごとの熱抵抗

部分ごとの熱貫流率

部位の平均熱貫流率

# 帳票（5）－「外皮の入力」シート①

## ■「外皮の入力」シート の見方

外皮（開口部除く）に係る情報の入力					
●屋根・天井の入力					
部位名称	計算方法	熱貫流率 W/mK	温度差 係数	熱貫流率 × 温度差係数	備考
屋根1	計算	3.301	1.0	3.301	
屋根2	計算	1.829	1.0	1.829	
セットバックバルコニー1	計算	3.279	1.0	3.279	
●外壁の入力					
部位名称	計算方法	熱貫流率 W/mK	温度差 係数	熱貫流率 × 温度差係数	備考
外壁1	計算	1.905	1.0	1.905	

「屋根・天井の熱貫流率」シートの  
部位名称、計算方法、熱貫流率に  
リンクしています

屋根・天井に関しては  
温度差係数は1.0です

「外壁の熱貫流率」シートの  
部位名称、計算方法、熱貫流率に  
リンクしています

外壁に関しては  
温度差係数は1.0です

# 帳票（6）－「外皮の入力」シート②

## ■「外皮の入力」シート の見方

### ●床（その他）：玄関等と浴室を除く部分 の入力

部位名称	計算方法	熱貫流率 W/(m <sup>2</sup> ·K)	温度差 係数	熱貫流率 × 温度差係数	備考
その他の床1	計算	1.776	0.7	1.243	
外気に接する床1	直接入力	0.350	1.0	0.350	
外気に接する床2	直接入力	0.700	1.0	0.700	

「床(その他)の熱貫流率」シートの  
部位名称、計算方法、熱貫流率に  
リンクしています

床裏に通じる「その他の床1」  
に関しては、  
温度差係数は0.7です

浴室の床が基礎断熱の場合、  
このように、網掛けとなります  
床断熱の場合は、

「床(浴室)の熱貫流率」シートの  
部位名称、計算方法、熱貫流率に  
リンクします

### ●床（浴室）の入力

部位名称	計算方法	熱貫流率 W/(m <sup>2</sup> ·K)	温度差 係数	熱貫流率 × 温度差係数	備考

上記に示す屋根・天井、外壁、  
床(その他)、床(浴室)それぞれに  
おいて、熱貫流率に温度差係数を  
乗じた値が最も大きいものが選定さ  
れます

床(その他)は各部位で複数の異なる  
仕様がある場合は、熱貫流率に  
温度差係数を乗じた値が大きい部  
位の温度差係数の値とします  
熱貫流率に温度差係数を乗じた  
値が等しい場合は、熱貫流率の大  
きい部位の温度係数の値とします

### ■計算で採用した外皮（基礎・開口部除く）に係る熱物性値

部位種別	熱貫流率 W/(m <sup>2</sup> ·K)	温度差 係数	日射熱取得率	
			冷房期	暖房期
屋根・天井	1.771	1.0	0.06	0.06
外壁	4.420	1.0	0.15	0.15
床（その他）	1.776	0.7	0.00	0.00
床（浴室）		0.7	0.00	0.00

日射熱取得率は  
熱貫流率×0.034  
で計算されます

# 帳票（7）－「基礎の熱貫流率」シート

## ■「基礎の熱貫流率」シート の見方

その他・玄関・勝手口の基礎の熱貫流率1							
部位	備考	部位名称			熱貫流率計算方法		
その他の基礎壁		その他の基礎壁1			計算		
位置				部位名	一般部	一般部+断熱部	断熱部
外気側				面積比率	1.00		
分類 (直接入力の場合: 建材名称)	材料名 (直接入力の場合: 根拠資料)	厚さ d mm	熱伝導率 λ W/mK	低減 断熱材	d/λ mK/W		
窓外側の表面熱伝達抵抗 Rse	外気	-	-	-	0.04		
フェノールフォーム断熱材	1種2号AI, AII	20	0.022		0.909		
コンクリート系材料	コンクリート	120	1.600		0.075		
窓内側の表面熱伝達抵抗 Rsi		-	-	-	0.11		
各断面の熱抵抗の合計	ΣR		mK/W		1.134		
各断面の熱貫流率	U		W/mK		0.882		
熱貫流率	U		W/mK			0.882	

面積比率は常に一般部が1.00です

部分ごとの熱抵抗

部位の平均熱貫流率





# 帳票 (10) – 「土間床等熱貫流率」シート①

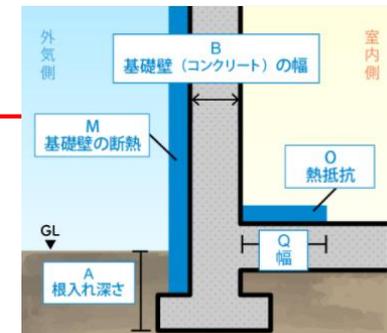
## ■「土間床等熱貫流率」シート の見方

浴室・玄関・勝手口の土間床等の熱貫流率1					
部位	備考	部位名称	位置	基礎の形式	
玄関の基礎		玄関の基礎1	外気側	外側断熱・布基礎	
土間床上端					
地盤面と同じか高い					
部位	分類 (直接入力の場合: 建材種別)	材料名 (直接入力の場合: 熱伝導率根拠資料)	厚さ d mm	熱伝導率 λ W/mK	d/λ mK/W
M	押出法ポリスチレンフォーム断熱材	3種aA	30	0.028	1.071
N					
O	押出法ポリスチレンフォーム断熱材	3種aA	30	0.028	1.071
根入れ深さ A mm		基礎壁の幅 B mm	土間床上端の上に設置する断熱材の壁から室内側の水平長さ Q mm		線熱貫流率 W/mK
500		120	450		0.530

基礎が外気に接しています

基礎の形式は、外側断熱・布基礎です

Oが無断熱の場合、空欄になります



線熱貫流率の結果が0.530W/mKです

# 帳票 (11) – 「土間床等外周の入力」シート①

## ■「土間床等外周の入力」シート の見方

### 土間床等の外周部に係る情報の入力

「土間床等熱貫流率」シート  
の部位が「その他の基礎」  
の値がリンクしています  
部位がない場合、網掛けと  
なります

#### ●その他（玄関等と浴室を除く）の土間床等の外周部の入力

部位名称	計算方法	線熱貫流率 W/mK	温度差 係数	線熱貫流率 × 温度差係数	備考

「土間床等熱貫流率」シート  
の部位が「浴室の基礎」の  
値がリンクしています

#### ●浴室の土間床等の外周部の入力

部位名称	計算方法	線熱貫流率 W/mK	温度差 係数	線熱貫流率 × 温度差係数	備考
浴室の基礎1	計算	1.77	1.0	1.77	基礎が外気に接しています
浴室の基礎2	計算	1.77	0.7	1.24	基礎が床裏に接しています

「土間床等熱貫流率」シート  
の部位が「玄関の基礎」・  
「勝手口の基礎」の値がリンク  
しています

#### ●玄関等（玄関、勝手口その他これらに類する部分）の土間床等の外周部の入力

部位名称	計算方法	線熱貫流率 W/mK	温度差 係数	線熱貫流率 × 温度差係数	備考
玄関の基礎1	規定値	1.80	1.0	1.80	---

# 帳票 (12) – 「土間床等外周の入力」シート②

## ■「土間床等外周の入力」シート の見方

「土間床等熱貫流率」シートの部位が「玄関の基礎」・「勝手口の基礎」の値がリンクしています

### ●玄関等(玄関、勝手口その他これらに類する部分)の土間床等の外周部の入力

部位名称	計算方法	線熱貫流率 W/mK	温度差 係数	線熱貫流率 × 温度差係数	備考
玄関の基礎1	規定値	1.80	1.0	1.80	---

上記に示す「その他の土間床等」、「浴室の土間床等」、「玄関等の土間床等」それぞれにおいて、線熱貫流率に温度差係数を乗じた値が最も大きいものが選定されます

### ■計算で採用した土間床等の外周に係る熱物性値

部位	線熱貫流率 W/mK
その他の土間床等の外周部 (玄関等と浴室を除く)	
浴室の土間床等	1.77
玄関等の土間床等	1.80

# 帳票 (13) – 「窓の入力」シート①

## ■「窓の入力」シート の見方

### 開口部に係る情報の入力

●窓の入力 (同じ性能の窓については、まとめて入力して構いません。ただし、緩和を利用する場合には、全ての窓について入力してください。)

【設置階】 : 設置階を設定した場合に表記されます。

【熱貫流率】 : 『建築研究所技術情報』の「2. エネルギー消費性能の算定方法 / 2.1 算定方法 / 第三章 暖冷房負荷と外皮性能 / 第三節 熱貫流率及び線熱貫流率」に基づき、以下の値を用いております。  
尚、\*1を使用した熱貫流率の一部には、ガラスの厚さ・種類(一般・合せ・Low-E膜色等)と中空層の厚さの組み合わせにより、中空層の厚さが同じでも熱貫流率が同じにはならない組み合わせが存在します。  
その場合は、熱貫流率が大きい方の数値を表記するようしておりますので、自己適合宣言書 附属書の値と一致しない場合もございます。(⇒詳しくは、シート「補足資料」参照)

\*1 自己適合宣言書・附属書(スペーサーの材質については、ガラス種の列でご確認ください)

\*2 『「建具とガラスの組み合わせ」による開口部の熱貫流率』

\*3 直接入力: 根拠資料は窓種の列をご確認ください

【日射熱取得率】 : 『建築研究所技術情報』の「2. エネルギー消費性能の算定方法 / 2.1 算定方法 / 第三章 暖冷房負荷と外皮性能 / 第四節 日射熱取得率」に基づき、以下の値を用いております。

\*4 自己適合宣言書・附属書

\*5 『開口部の仕様別日射熱取得率とYKK AP製ガラス一覧』

\*6 直接入力: 根拠資料はガラス種の列をご確認ください

設置階	方位	窓記号	建具の仕様 (玄関ドアの場合: 枠バリエーション)	商品シリーズ (直接入力の場合: 名称)	窓種 (玄関ドアの場合: デザイン) (直接入力の場合: 熱貫流率の根拠資料)	ガラス種 ガス/構成/日射: Low-E膜色/スペーサー (直接入力の場合: 日射熱取得率の根拠資料)	熱
							性能値 W/m <sup>2</sup> K
1	南	W-1	樹脂	APW430+/APW431+クリプトンガス入り	FIX窓	ガス入/ダブルLow-E三層複層(G14×2)/日射遮蔽型ブルー・ブロンズ/樹脂スペーサー	0.78
1	南	W-2	樹脂	APW430+/APW431+クリプトンガス入り	FIX窓	ガス入/ダブルLow-E三層複層(G14×2)/日射遮蔽型ブルー・ブロンズ/樹脂スペーサー	0.78
2	東	W-3	樹脂	APW230	全窓	ガス無/Low-E複層(A14以上)/日射遮蔽型ブルー・ブロンズ/アルミスぺーサー	2.15
2	東	W-4	-	簡易用直接入力窓	U値根拠資料B	η値根拠資料B	2.33
-	-	D1	袖付	コンコード S30 (断熱タイプ)	ドア本体:採光付(C02N、C03N、C06Nデザイン)	ドア本体:組立完成品 袖:Low-E防犯合わせ複層(ガラス中央部の熱貫流率1.4以下)	2.33

ドアで入力しても「大部分が透明材料」で構成されている場合、「窓のシート」に出力されます

次ページに続く

窓の設置した階が表示されます  
設置した階を選択しない場合は「-」で表示されます

# 帳票 (14) – 「窓の入力」シート②

## ■「窓の入力」シート の見方

熱貫流率		垂直面 日射熱取得率		熱性能値として 代表試験体を用いた場合の根拠			緩和利用を使う場合に入力				備考
性能値 W/m <sup>2</sup> K	根拠	性能値	根拠	附属書No.	区分 記号	自己適合 宣言書	U値:2%	η値:4%	窓の大きさ		
							最大	最大	mm		
							2.0 m <sup>2</sup>	4.0 m <sup>2</sup>	幅	高さ	
0.78	*1	0.24	*5	APF0001-9	①	APS0001	○	○	1600	1300	
0.78	*1	0.24	*5	APF0001-9	①	APS0001	○	×	1600	1300	
2.15	*2	0.29	*5	—	—	—	×	×	---	---	
2.33	*3	0.46	*6	—	—	—	×	○	100	200	
2.33	*1	0.27	*4	APF0127-4	—	APS0002	○	○	1690	2235	

熱貫流率の性能値として「代表試験体を用いた場合」、帳票に附属書No.、区分記号、自己適合宣言書が表示されます。ドアで入力しても「大部分が透明材料」で構成されている場合、「窓のシート」に出力されます。

区分記号は附属書の「■ ガラス構成ごとの開口部の熱貫流率区分・開口部の日射熱取得率」または「■ 開口部の熱貫流率 性能一覧」に記載されています。

熱貫流率の一部には、ガラスの厚さ・種類（一般・合わせ・Low-E膜色等）と中空層の厚さの組み合わせにより、中空層の厚さが同じでも熱貫流率が同じにはならない組み合わせが存在します ⇒ 詳しくは、シート「補足資料」参照ください。

申請時に、欄に記載の附属書、自己適合宣言書を添付してください。添付する書類のリンクは「帳票ダウンロード」ページからダウンロードできます。

帳票ダウンロード

戻る 住宅情報を保存

計算結果のExcelファイルは、以下のボタンからダウンロードできます。  
Excelの印刷機能を用いて、入力のある全てのシートを印刷して、帳票を出力してください。

[Excelファイルをダウンロード](#)

Excelファイルの「窓の入力」「ドアの入力」シートには、附属書Noや自己適合宣言書Noが表示されます。性能証明としてご使用になる場合は、以下の書類の添付が必要です。ダウンロードしてご利用ください。  
「大部分が透明材料で構成されている開口部（開口部区分「窓」）」となる日射熱取得率は、『開口部の仕様別日射熱取得率とYKK AP製ガラス一覧』の値（仕様値）を用いております。  
なお、開口部区分「窓」となる「袖および横間付きドア等」の日射熱取得率は、自己適合宣言書・附属書の値（代表試験体の値）を用いております。  
詳細は、Excelファイルの「窓の入力」で確認することができます。

	附属書No.	自己適合宣言書	仕様値
窓	APF0001-9	APS0001	開口部の日射熱取得率
			開口部の熱貫流率 (窓・框ドア・引戸)
ドア	APF0127-4	APS0002	開口部の日射熱取得率
	APF0098-5		

# 帳票 (15) – 「窓の入力」シート③

## ■「窓の入力」シート の見方

熱貫流率		垂直面 日射熱取得率		熱性能値として 代表試験体を用いた場合の根拠			緩和利用を使う場合に入力				備考
性能値 W/mK	根拠	性能値	根拠	附属書No.	区分 記号	自己適合 宣言書	U値:2%	η値:4%	窓の大きさ		
							最大 2.0 m <sup>2</sup>	最大 4.0 m <sup>2</sup>	幅	高さ	
0.78	*1	0.24	*5	APF0001-9	①	APS0001	○	○	1600	1300	
0.78	*1	0.24	*5	APF0001-9	①	APS0001	○	×	1600	1300	
2.15	*2	0.29	*5	-	-	-	×	×	---	---	
2.33	*3	0.46	*6	-	-	-	×	○	100	200	
2.33	*1	0.27	*4	APF0127-4	-	APS0002	○	○	1690	2235	

熱貫流率の性能値として「仕様値を用いた場合」、  
帳票に附属書No.、区分記号、自己適合宣言書は表示されません

開口部区部「窓」となる「袖および欄間付きドア等」の  
熱貫流率と日射熱取得率は  
自己適合宣言書・附属書の値（代表試験体の値）を用いています  
帳票に附属書No.、自己適合宣言書が表示されます

申請時に添付して下さい

申請時に添付して下さい

帳票ダウンロード

戻る 住宅情報を保存

計算結果のExcelファイルは、以下のボタンからダウンロードできます。  
Excelの印刷機能を用いて、入力のある全てのシートを印刷して、帳票を出力してください。

[Excelファイルをダウンロード](#)

Excelファイルの「窓の入力」「ドアの入力」シートには、附属書Noや自己適合宣言書Noが表示されます。  
性能証明としてご使用になる場合は、以下の書類の添付が必要です。ダウンロードしてご利用ください。  
「大部分が透明材料で構成されている開口部（開口部区分「窓」）」となる日射熱取得率は、『開口部の仕様別日射熱取得率とKK AP製ガラス一覧』の値（仕様値）を用いております。  
なお、開口部区分「窓」となる「袖および欄間付きドア等」の日射熱取得率は、自己適合宣言書・附属書の値（代表試験体の値）を用いております。  
詳細は、Excelファイルの「窓の入力」で確認することができます。

	附属書No.	自己適合宣言書	仕様値
窓	APF0001-9	APS0001	開口部の日射熱取得率 開口部の熱貫流率 (窓・框ドア・引戸)
ドア	APF0127-4 APF0098-5	APS0002	開口部の日射熱取得率

# 帳票 (16) – 「窓の入力」シート④

## ■「窓の入力」シート の見方

熱貫流率		垂直面 日射熱取得率		熱性能値として 代表試験体を用いた場合の根拠			緩和利用を使う場合に入力				備考
性能値 W/m <sup>2</sup> K	根拠	性能値	根拠	附属書No.	区分 記号	自己適合 宣言書	U値:2%	η値:4%	窓の大きさ mm		
							最大	最大	幅	高さ	
							2.0 m <sup>2</sup>	4.0 m <sup>2</sup>			
0.78	*1	0.24	*5	APF0001-9	①	APS0001	○	○	1600	1300	
0.78	*1	0.24	*5	APF0001-9	①	APS0001	○	×	1600	1300	
2.15	*2	0.29	*5	—	—	—	×	×	—	—	
2.33	*3	0.46	*6	—	—	—	×	○	100	200	
2.33	*1	0.27	*4	APF0127-4	—	APS0002	○	○	1690	2235	

緩和を利用する窓には「○」が表示されます

熱貫流率 2%緩和利用対象窓	NG	7.94 m <sup>2</sup>
日射熱取得率 4%緩和利用対象窓	NG	5.88 m <sup>2</sup>

緩和利用できる場合は「OK」、  
緩和利用できない場合は「NG」が表示されます  
⇒「操作方法は物件編集画面 (10) – 窓編集画面①」参照してください

# 帳票 (17) - 「窓の入力」シート⑤

## ■「窓の入力」シート の見方

### 開口部に係る情報の入力

●窓の入力 (同じ性能の窓については、まとめて入力して構いません。ただし、緩和を利用する場合には、全ての窓について入力してください。)

- 【設置階】：設置階を設定した場合に表示されます。
- 【熱貫流率】：『建築研究所技術情報』の「2. エネルギー消費性能の算定方法 / 2.1 算定方法 / 第三章 暖冷房負荷と外皮性能 / 第三節 熱貫流率及び緩和熱貫流率」に基づき、以下の値を用いております。  
尚、\*1を使用した熱貫流率の一部には、ガラスの厚さ・種類 (一般・合せ・Low-E膜色等) と中空層の厚さの組み合わせにより、中空層の厚さが同じでも熱貫流率が同じにはならない組み合わせが存在します。  
その場合は、熱貫流率が大きい方の数値を表記するようしておりますので、自己適合宣言書 附属書の値と一致しない場合もございます。(→詳しくは、シート「補足資料」参照)  
\*1 自己適合宣言書・附属書 (スペーサーの材質については、ガラス種の列でご確認ください)  
\*2 『「建具とガラスの組み合わせ」による開口部の熱貫流率』  
\*3 直接入力：根拠資料は窓種の列をご確認ください
- 【日射熱取得率】：『建築研究所技術情報』の「2. エネルギー消費性能の算定方法 / 2.1 算定方法 / 第三章 暖冷房負荷と外皮性能 / 第四節 日射熱取得率」に基づき、以下の値を用いております。  
\*4 自己適合宣言書・附属書  
\*5 『開口部の仕様別日射熱取得率とYKK AP製ガラス一覧』  
\*6 直接入力：根拠資料はガラス種の列をご確認ください

設置階	方位	窓記号	建具の仕様 (玄関ドアの場合: 枠バリエーション)	商品シリーズ (直接入力の場合: 名称)	窓種 (玄関ドアの場合: デザイン) (直接入力の場合: 熱貫流率の根拠資料)	ガラス種 ガス/構成/日射: Low-E膜色/スペーサー (直接入力の場合: 日射熱取得率の根拠資料)	熱貫流率		垂直面 日射熱取得率		熱性能値として 代表試験体を用いた場合の根拠			緩和を利用する場合に入力				備考		
							性能値 W/m <sup>2</sup> K	根拠	性能値	根拠	附属書No.	区分 記号	自己適合 宣言書	窓の大きさ mm		最大 2.0 m <sup>2</sup>	最大 4.0 m <sup>2</sup>		幅	高さ
														U値:2%	η値:4%					
1	南	W-1	樹脂	APW430+/APW431+クリプトンガス入り	FIX窓	ガス/ダブルLow-E三層複層(G14×2)/日射遮断型ブルー・ブロンズ/樹脂スペーサー	0.78	*1	0.24	*5	APF0001-9	①	APS0001	○	○	1600	1300			
1	南	W-2	樹脂	APW430+/APW431+クリプトンガス入り	FIX窓	ガス/ダブルLow-E三層複層(G14×2)/日射遮断型ブルー・ブロンズ/樹脂スペーサー	0.78	*1	0.24	*5	APF0001-9	①	APS0001	○	×	1600	1300			
2	東	W-3	樹脂	APW230	全窓	ガス無/Low-E複層(A14以上)/日射遮断型ブルー・ブロンズ/アルミスペーサー	2.15	*2	0.29	*5	-	-	-	×	×	-	-			
2	東	W-4	-	簡易用直接入力窓	U値根拠資料B	η値根拠資料B	2.33	*3	0.46	*6	-	-	-	×	×	100	200			
-	-	D1	袖付	コンコード S30 (断熱タイプ)	ドア本体:採光付(C02N、C03N、C06Nデザイン)	ドア本体:組立完成品 袖:Low-E防犯合わせ複層(ガラス中央部の熱貫流率1.4以下)	2.95	*1	0.27	*4	APF0127-4	-	APS0002	○	○	1690	2235			
												熱貫流率2%緩和利用対象窓		NG		7.94 m <sup>2</sup>				
												日射熱取得率4%緩和利用対象窓		NG		5.88 m <sup>2</sup>				

### ■計算で採用した開口部に係る熱物性値

開口部 種別	緩和利用対象窓除く			日射熱取得率【定められた条件】 (取得日射熱補正係数は、規定条件で計 算)		
	熱貫流率 W/m <sup>2</sup> K (最大値)	垂直面日射熱取得率		方位	冷房期	暖房期
		冷房期 (最大値)	暖房期 (最小値)			
窓	2.33	0.46	0.24	南西	0.392	0.157
				北西	0.397	0.143
				北東	0.397	0.141
				南東	0.392	0.162

### ■計算で採用した開口部に係る熱物性値

開口部 種別	緩和利用対象窓除く			日射熱取得率【定められた条件】 (取得日射熱補正係数は、規定条件で計 算)		
	熱貫流率 W/m <sup>2</sup> K (最大値)	垂直面日射熱取得率		方位	冷房期	暖房期
		冷房期 (最大値)	暖房期 (最小値)			
窓	2.33	0.46	0.24	南西	0.392	0.157
				北西	0.397	0.143
				北東	0.397	0.141
				南東	0.392	0.162

窓の熱貫流率は最も大きいものが選定されています  
 窓の冷房期の垂直面日射熱取得率は最も大きいものが選定されています  
 窓の暖房期の垂直面日射熱取得率は最も小さいものが選定されています

# 帳票 (18) – 「ドアの入力」シート①

## ■「ドアの入力」シート の見方

### 開口部 (ドア) に係る情報の入力

#### ●ドアの入力 (※大部分がガラスで構成されるドアは「窓の入力」シートに入力されます。)

- 【熱貫流率】 : 『建築研究所技術情報』の「2. エネルギー消費性能の算定方法 / 2.1 算定方法 / 第三章 暖冷房負荷と外皮性能 / 第三節 熱貫流率及び線熱貫流率」に基づき、以下の値を用いております。  
 尚、\*1を使用した熱貫流率の一部には、ガラスの厚さ・種類 (一般・合せ・Low-E膜色等) と中空層の厚さの組み合わせにより、中空層の厚さが同じでも熱貫流率が同じにはならない組み合わせが存在します。  
 その場合は、熱貫流率が大きい方の数値を表記するようになっておりますので、自己適合宣言書 附属書の値と一致しない場合もございます。(⇒詳しくは、シート「補足資料」参照)  
 \*1 自己適合宣言書・附属書 (スペーサーの材質については、ガラス種の列でご確認ください)  
 \*2 『「建具とガラスの組み合わせ」による開口部の熱貫流率』  
 \*3 直接入力: 根拠資料は玄関ドア等: デザインの列、勝手口ドア (片開きドア) 断熱腰パネル付: ガラス種の列をご確認ください

#### ●玄関ドア等

ドア記号	商品シリーズ (直接入力の場合: 名称)	デザイン (直接入力の場合: 熱貫流率の根拠資料)	熱貫流率		熱貫流率の性能値として 代表試験体を用いた場合の根拠			備考
			性能値 W/m <sup>2</sup> K	根拠	附属書No.	区分 記号	自己適合 宣言書	
d4	コンコード S30 (断熱タイプ)	袖付・ドア本体:組立完成品 袖:Low-E防犯合わせ複層(ガラス中央部の熱貫流率1.4以下)・ドア本体:採光付(C02N、C03N、C06Nデザイン以外)	2.28	*1	APF0127-4	-	APS0002	
d5	玄関ドア プロント	親子 子扉採光付(ランマ付)・ドア本体:組立完成品 ランマ:単板ガラス(ガラス中央部の熱貫流率5.0以下)・ドア本体:採光付(C02N、C03Nデザイン以外)	5.82	*1	APF0130-3	-	APS0002	
d1	M30 既認証自動ドア (断熱タイプ)	外引込み・組立完成品・ドア本体:採光付(C02N、C03N、C06Nデザイン)	2.91	*2	-	-	-	

#### ●勝手口ドア (片開きドア) 断熱腰パネル付

ドア記号	商品シリーズ (直接入力の場合: 名称)	ガラス種 ガス/構成/日射: Low-E膜色/スペーサー (直接入力の場合: 熱貫流率の根拠資料)	熱貫流率		熱貫流率の性能値として 代表試験体を用いた場合の根拠			備考
			性能値 W/m <sup>2</sup> K	根拠	附属書No.	区分 記号	自己適合 宣言書	
w11	樹脂・APW430/APW431	勝手口ドア 断熱腰パネル付・ガス入/Low-E三层複層(G15×2)/日射取得型ニュートラル/樹脂スペーサー	1.14	*1	APF0007-7	②	APS0001	

#### ■計算で採用した開口部に係る熱物性値

開口部 種別	熱貫流率 W/m <sup>2</sup> K (最大値)	日射熱取得率	
		冷房期	暖房期
ドア	5.82	0.20	0.20

ドアの熱貫流率は最も大きいものが選定されています  
 日射熱取得率は熱貫流率×0.034で計算されます

# 帳票 (19) – 「ドアの入力」シート②

## ■「ドアの入力」シート の見方

### ●玄関ドア等

ドア記号	商品シリーズ (直接入力の場合：名称)	デザイン (直接入力の場合：熱貫流率の根拠資料)	熱貫流率		熱貫流率の性能値として 代表試験体を用いた場合の根拠			備考
			性能値 W/m <sup>2</sup> K	根拠	附属書No.	区分 記号	自己適合 宣言書	
d4	コンコード S30 (断熱タイプ)	袖付・ドア本体：組立完成品 袖：Low-E防犯合わせ複層(ガラス中央部の熱貫流率1.4以下)・ドア本体：採光付(C02N、C03N、C06Nデザイン以外)	2.28	*1	APF0127-4	-	APS0002	
d5	玄関ドア プロント	親子 子扉採光付(ランマ付)・ドア本体：組立完成品 ランマ：単板ガラス(ガラス中央部の熱貫流率6.0以下)・ドア本体：採光付(W03、S08デザイン以外)	5.82	*1	APF0130-3	-	APS0002	
d1	M30 顔認証自動ドア (断熱タイプ)	外引込み・組立完成品・ドア本体：採光付(C02N、C03N、C06Nデザイン)	2.91	*2	-	-	-	

### ●勝手口ドア (片開きドア) 断熱腰パネル付

ドア記号	商品シリーズ (直接入力の場合：名称)	ガラス種 ガス/構成/日射：Low-E膜色/スペーサー (直接入力の場合：熱貫流率の根拠資料)	熱貫流率		熱貫流率の性能値として 代表試験体を用いた場合の根拠			備考
			性能値 W/m <sup>2</sup> K	根拠	附属書No.	区分 記号	自己適合 宣言書	
w11	樹脂・APW430/APW431	勝手口ドア 断熱腰パネル付・ガス入/Low-E三層複層(G15×2)/日射取得型ニュートラル/樹脂スペーサー	1.14	*1	APF0007-7	②	APS0001	

帳票ダウンロード

戻る 住宅情報を保存

計算結果のExcelファイルは、以下のボタンからダウンロードできます。  
Excelの印刷機能を用いて、入力のある全てのシートを印刷して、帳票を出力してください。

**Excelファイルをダウンロード**

熱貫流率の性能値として「**代表試験体を用いた場合**」、  
帳票に附属書No.、自己適合宣言書が表示されます

熱貫流率の性能値として「**仕様値を用いた場合**」、  
帳票に附属書No.、区分記号、自己適合宣言書は表示されません

こちらを  
申請時に添付して下さい

窓で入力しても「大部分が不透明材料」で構成されている場合、  
「ドアのシート」に出力されます

その場合、帳票に附属書No.、区分記号、自己適合宣言書が表示されます  
区分記号は附属書「**■ ガラス構成ごとの開口部の熱貫流率区分・開口部の日射熱取得率区分**」  
または「**■ 開口部の熱貫流率・開口部の日射熱取得率 性能一覧**」に記載されています

Excelファイルの「窓の入力」「ドアの入力」シートには、附属書No.や自己適合宣言書No.が表示されます。  
性能証明としてご使用になる場合は、以下の書類の添付が必要です。ダウンロードし  
「大部分が透明材料で構成されている開口部 (開口部区分「窓」)となる日射熱取得率  
YKK AP製ガラス一覧」の値 (仕様値) を用いております。  
なお、開口部区分「窓」となる「袖および横開きドア等」の日射熱取得率は、自己  
値)を用いております。  
詳細は、Excelファイルの「窓の入力」で確認することができます。

こちらを  
申請時に添付して下さい

	附属書No.	自己適合宣言書	仕様値
窓	APF0042-5		開口部の日射熱取得率
	APF0113-5	APS0001	開口部の熱貫流率 (窓・框ドア・引戸)
	APF0007-7		
ドア	APF0127-4	APS0002	開口部の日射熱取得率
	APF0130-3		開口部の熱貫流率と日射熱取得率 (玄関ドア・引戸)

熱貫流率の一部には、ガラスの厚さ・種類 (一般・合わせ・Low-E膜色等) と  
中空層の厚さの組み合わせにより、中空層の厚さが同じでも熱貫流率が同じには  
ならない組み合わせが存在します ⇒ 詳しくは、シート「補足資料」参照ください

# 帳票（20） – 印刷方法

基本的には、「帳票の作成方法」以外のシートを選択して、Excelの印刷機能を使って印刷して、審査機関に提出してください。

## ■ 印刷の仕方

The image shows two screenshots from Microsoft Excel. The top screenshot shows the 'File' menu with the 'Print' option highlighted by a red box. A red arrow points from this box to the text '①印刷したいシートを開いて、「ファイル」タブをクリックします'. The bottom screenshot shows the 'Print' dialog box with the 'Print' button highlighted by a red box. A red arrow points from this box to the text '③「印刷」をクリックします'. Another red arrow points from the 'Print' button in the dialog box to the text '②「印刷」をクリックします'.

①印刷したいシートを開いて、「ファイル」タブをクリックします

②「印刷」をクリックします

③「印刷」をクリックします

※印刷範囲は自動的に設定されます